

[様式 9 - 1]

## 福祉サービス等第三者評価結果

## 総合評価

受診施設名	清心保育園	施設種別	保育所 (旧体系： )
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会		

令和 2 年 2 月 12 日

総 評	<p>母体となる清仁福祉会は、昭和27年に初代園長・中川三千代が開園した富野荘保育園（現清仁保育園）に始まり、昭和47年に社会福祉法人化、昭和55年には姉妹園として清心保育園を開園するなど、3つの保育園と1つの学童保育を運営しており、初代園長の思いを大切に継承し、地域の子育て家庭と共に歩んできた法人です。</p> <p>保育理念は「1、子どもに対して 心身共に豊かで健やかな成長を促す支援」「2、保護者に対して 育児と就労の支援」「3、地域に対して 地域に愛される子育て支援」を掲げ、日々の保育を実践されています。</p> <p>清心保育園として平成19年に南園舎の建築、平成28年に乳児棟を新築するなど、地域の保育ニーズに応えようと運営の拡充に努めてこられました。園舎は、職員の意見を反映させており、保育に対する思いや使いやすさを検討し、反映させています。子どもの遊ぶスペースなどゆったりと作られており、働く職員にとっても導線をうまく工夫された施設です。</p> <p>平成27年より現理事長による新体制で運営が行われており、『社会福祉とは「自己犠牲」である』と自ら襟を正し、子どもや保護者そして職員もみんな家族だと思って思いやりを持つ事を大切にしており、職員や保護者に、その思いを伝えています。</p> <p>理事長のリーダーシップのもと管理者を中心とした体制を構築し、地域の社会貢献や保育園が果たす役割をさらに充実・発展出来るよう取り組んでいます。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 管理者と保育士等の意見交換などとても良い関係が築かれています。働きやすい職場づくりに取り組んでおり、その効果として産後の職場復帰など平均勤続年数が上がっています。</li> <li>・ 今年度から新たに就任した園長を中心に、今まで取り組んできた園としての伝統や保育を大切に思う思いを土台に、更なる子ども主体の保育をめざして日々の運営に取り組んでいます。</li> <li>・ 卒園児の保護者に卒園製作として一枚の大きなパッチワークの布を作ってもらい、同じ作業を一緒にすることで保護者同士の仲間意識が芽生えたと共にその繋がりが小学校にまで継承されるよう取り組んでいます。一枚の大きなパッチワークの布は園で様々な場面で使用されており、継続的にものを大切にする気持ちも育めるよう取り組んでいます。</li> <li>・ 毎日の給食は玄米ごはんと無農薬の自然食品を中心としたメニューで、食育計画やクッキング計画に基づいて、子どもたちに食事の大切さを伝えられるよう努めています。</li> </ul>
特に改善が望まれる点(※)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政で定められている洪水時の避難確保計画を整備されるとより良いでしょう。</li> <li>・ 全体的な計画について、次年度に向けて全体的な計画の評価・反省を行い、次の計画に反映させると共に園内に掲示するなど、保護者への周知に取り組まれるとより良いでしょう。</li> <li>・ 感染症の予防や発生時における各クラスの準備物の統一や体制などを整備し明文化するなどし、それをもとに定期的に感染症予防等の勉強会等を開催するとより良いでしょう。</li> </ul>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

# 京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

## 【保育所版】 評価結果対比シート

(注)判断基準「a b c」について

【平成28年度以前の基準とは異なるため、当評価結果との対比はできませんのでご留意下さい】

(a)は質の向上を目指す際の目安となる状態、(b)は多くの施設・事業所の状態、(c)はb以上の取り組みとなることを期待する状態、に改定されました。改訂後の評価基準に基づいた評価では(b)が一般的な取り組み水準となり、従前に比べて(b)の対象範囲が広がります。また、改正前に(a)であった評価項目が改正後の再受診で(a)を得られなくなる可能性もあります。

受診施設名	清心保育園
施設種別	保育所
評価機関名	京都府保育協会
訪問調査日	2020年2月12日

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	1	① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	a
[自由記述欄]					
・保育理念、基本方針、保育目標は明文化されており、園内の掲示や重要事項説明書、園のパフレット等に明記しています。基本方針については各部署に掲示し周知に努めています。また、その内容は、全職員に配布し年度初めの職員会議で読み合わせを行っています。					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-2 経営状況の把握	I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	2	① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	a
		3	② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a	b
[自由記述欄]					
・理事長、役員、管理者を中心に清仁福祉会10年ビジョンを平成27年に策定し、それをもとに中期計画を作成しています。10年ビジョンは法人が抱える問題点、課題、今後の方向性に関わる内容について数値目標や具体的な根拠となる事由を明記し、すぐに出来るもの、1年程度かかるもの、中長期的に実施していくもの等を整理し、それぞれの実施計画を策定し、毎年、実施結果がどうであったかが分かるようになっていきます。また、理事会も毎月開催しており、計画の進捗状況や経営状況の分析・把握に努めています。今後は、これらの内容を職員にも計画策定段階から周知されるとより良いでしょう。					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-3 事業計画の策定	I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	4	① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a	a
		5	② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a	a
	I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。	6	① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	b
		7	② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a	b
[自由記述欄]					
・中・長期的な計画が策定されています。今後は、管理者だけでなく職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されるとより良いでしょう。また、その計画を分かりやすく保護者に発信すると良いでしょう。					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組	I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	8	① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b	b
		9	② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b	b
[自由記述欄]					
・園長の他に、主任、副主任、クラスリーダー、職務リーダーを管理者として配置し、それぞれの会議を毎月実施しています。職員個別の自己評価として毎月「勤務評価管理表」に基づいて自己評価と管理者評価を実施し、それをもとに面談を行っています。今後は、個々の保育士等が行う自己評価だけでなく、第三者評価を受診したり、それに準ずるような基準を利用するなどして、保育園全体の自己評価を年に1回以上実施されるとより良いでしょう。					

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-1 管理者の責任と リーダーシップ	II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。	10	① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a	a
		11	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	b
	II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	12	① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	a
		13	② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	a
[自由記述欄]					
<p>・施設長の役割や責任について、清仁福祉会職務分掌表に示されています。今年度から新たに就任した園長を中心に、今まで取り組んできた園としての伝統や保育を大切にしたいを土台に、更なる子ども主体の保育をめざして日々の運営に取り組んでいます。</p> <p>・遵守すべき法令等について、就業規則や服務規律などの徹底に取り組んでいます。今後は、児童福祉全体に関わる幅広い分野についても遵守すべき法令等をリスト化するなど、職員間で共有できるよう工夫されると良いでしょう。</p> <p>・経営について理事長・法人本部と連携し、労務・人事など財務状況の把握に努め随時、園体制の改善・見直しに努めています。</p>					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-2 福祉人材の確保・ 育成	II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事 管理の体制が整備されている。	14	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	a
		15	② 総合的な人事管理が行われている。	a	b
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	16	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a	a
[自由記述欄]					
<p>・理事長を中心に就業規則を改訂し、人事基準（職員の評価）の明示、リーダー手当の支給、年次有給休暇の取得促進、7日間の夏季休暇取得など福利厚生充実を図っています。また、毎月、正規職員を中心に面談を実施し、職員の要望等について把握に努めています。今後は、現在適宜実施しているパート職員との面談についても、年1回以上定期的に実施するなど、取り組まれると良いでしょう。</p> <p>・管理者と保育士等の意見交換などとても良い関係が築かれています。働きやすい職場づくりに取り組んでおり、その効果として産後の職場復帰など平均勤続年数が上がっています。</p>					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-2 福祉人材の確保・ 育成	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	17	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	a
		18	② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b	b
		19	③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b	b
	II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる 専門職の研修・育成が適切に行われている。	20	① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b	b
[自由記述欄]					
<p>・京都府保育協会のキャリアアップ研修を中心に、研修計画を作成し職員の育成に繋がっています。研修内容は会議で報告し園で共有できるよう取り組んでいます。今後は、定期的に研修計画の評価・見直しを実施するとともに、職員の職責や職務上必要となる知識に応じた研修計画とされるとより良いでしょう。</p> <p>・実習生の受け入れについて、マニュアルが整備されています。今後は、実習生が具体的に計画を立てやすいよう園独自のプログラム等を整備されるとより良いでしょう。</p>					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-3 運営の透明性の確保	II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	21	① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b	b
		22	② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a	b
[自由記述欄]					
<p>・園のホームページ等に財務諸表を公開しています。今後は、事業計画や事業報告なども公開されるとより良いでしょう。</p> <p>・経営内容については、毎月理事会を開催し、経営面の報告や公認会計士による助言を受け、その改善に繋げています。今後は、外部監査として公認会計士による財務状況を中心とした監査を実施されるとより良いでしょう。</p>					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-4 地域との交流、地域貢献	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	23	① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b	b
		24	② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b	b
	25	① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b	b	
	II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	26	① 保育所が有する機能を地域に還元している。	a	b
		27	② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b	b
[自由記述欄]					
<p>・地域の高齢者センター訪問や、消防署、警察署の見学なども実施しています。未就園児を対象にした遊びの広場を月1回、園庭開放を月2回実施しています。休日保育も実施しています。ボランティア等の受け入れについてもマニュアルを整備し、来てもらいたいと考えています。今後は、それらの取り組みや思いについて、地域の方に知ってもらえるように発信されるとより良いでしょう。</p>					

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	28	① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	b	b
		29	② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	b	a
	Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。	30	① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	a
		31	② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	b	b
		32	③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	b	b

[自由記述欄]

- ・子どもの人権を尊重するよう常に会議等で話し合い、職員間で共通理解を持って保育が実践出来るよう努めています。今後は、園で話し合った人権についての思いや園の方針等を保護者に発信されるとより良いでしょう。
- ・個人情報や人権保護に関するマニュアルが整備されており、職員から内容についての同意書ももらっています。
- ・入園希望者に対する園見学を随時受け付け、その都度対応しています。入園説明会では重要事項説明書などを活用し、園生活についての説明を行っています。今後は、重要事項説明書に保育料以外に発生する園独自の諸費用について金額を明示すると良いでしょう。
- ・転園時には、保育要録を作成し転園先に送付しています。今後は、それらの手順を文書化するとより良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	33	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	b
		34	② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a	a
		35	③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	b

[自由記述欄]

- ・苦情解決の仕組みを整備し、保護者への周知に努めていると共に、対応内容を記録したものを職員間で共有しています。今後は、今以上に保護者が要望を出しやすいよう匿名による保護者アンケートを実施するなど、工夫されるとより良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	36	① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b	a
		37	② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b	b
		38	③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b	b
		39	④ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	b	a

[自由記述欄]

- ・事故発生時のマニュアルや事故報告書、ヒヤリハットを作成しています。それらの内容は、会議で報告し職員間で原因や対策等について考え、情報を共有しています。
- ・感染症予防・対策マニュアルを整備し、職員に周知しています。今後は、感染症の予防や発生時における各クラスの準備物の統一や体制などを整備し明文化するなどし、それをもとに定期的に感染症予防等の勉強会等を開催するとより良いでしょう。
- ・災害時の対応・体制マニュアルを整備し、浸水時に備えた訓練も年1回実施しています。今後は、行政で定められている洪水時の避難確保計画を整備されるとより良いでしょう。
- ・不審者侵入時対応マニュアルが整備され、内容を全職員に周知しています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-2 福祉サービスの質 の確保	Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な 実施方法が確立している。	40	① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a	a
		41	② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	a
	Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉 サービス実施計画が策定されてい る。	42	① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	b	b
		43	② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	b	a
	Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に 行われている。	44	① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	b
		45	② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	a

[自由記述欄]

- ・保育を一定の水準で常に行なえるようにする為、保育の手順マニュアルを作成し、職員に周知しています。
- ・長期・短期の指導計画を策定し、乳児については個別の指導計画を策定しています。今後は、全体的な計画を踏まえた上で各指導計画が策定されると良いでしょう。
- ・子どもに関する保育の実施状況が記録され、職員間でその情報を共有しています。今後は、記録する職員で書き方に差異が生じないように、記録要領の作成など職員への指導法を工夫されるとより良いでしょう。

A-1 保育内容

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(1) 全体的な計画の編成	46	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を編成している。	b	b
		47	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b	a
	A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	48	② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b	a
		49	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b	a
		50	④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b	b

[自由記述欄]

・全体的な計画を編成しています。今後は、次年度に向けて全体的な計画の評価・反省を行い、次の計画に反映させると共に園内に掲示するなど、保護者への周知に取り組みますとより良いでしょう。

・五領域を大切に考え、子どもが健やかに育つ環境整備に努めています。各保育室は床暖房が整備され、室内は通風や採光にも配慮されており、子どもが過ごしやすい環境があります。子どもたちには薄着保育を進めており、年間通して半そで半ズボンで過ごします。今後は、保育者の指示を今以上に減らし、子どもがより自発的に生活と遊びに取り組み、発展・展開出来るよう取り組んでいきたいと考えています。

・卒園児の保護者に卒園製作として一枚の大きなパッチワークの布を作ってもらい、同じ作業を一緒にすることで保護者同士の仲間意識が芽生えたと共にその繋がりが小学校にまで継承されるよう取り組んでいます。一枚の大きなパッチワークの布は園で様々な場面で使用されており、継続的にものを大切にする気持ちも育めるよう取り組んでいます。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	51	⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		52	⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	b
		53	⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	a
		54	⑧ 障害のある子どもが安心して生活でき喜んで遊べる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	b
		55	⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	b
		56	⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b	b

[自由記述欄]

・0歳児は遊び・食事・午睡の空間を分け、一人一人が落ち着いて過ごせるよう配慮しています。特定の保育者との継続的な関りが保てるよう担当制を行っています。1~2歳児は、子どもの成長に合わせた玩具を多種用意するなど環境を整え、じっくりと遊べるよう配慮しています。今後は、1~2歳児においても様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりが持てるよう工夫されるとより良いでしょう。

・3歳以上児の保育は、子どもが主体となって活動出来るよう配慮しています。和太鼓、造形活動、劇遊び、園庭にある大木に子どもが登って遊ぶなど、様々な体験が出来るようにしています。

・要支援児に対し個別の指導計画を作成し、管理者、担任保育士と加配保育士を交えた支援会議を開催し、保護者とも情報共有しながら保育を進めています。今後は、保護者全体に障がいのある子どもの保育に関して共通理解が持てるよう取り組まれますとより良いでしょう。

・長時間にわたる保育については、延長ノートによる伝達と、毎日同じ保育士が必ず関わるようにするなど、保育の引継ぎと共に子どもが安心して過ごす事が出来るよう努めています。今後は、指導計画等に長時間保育についての位置づけがなされるとより良いでしょう。

・小学校と年1回体験入学と称して一年生との交流があります。今後は、全体的な計画等の中に、それらの小学校との連携に関する事項が明示されるとより良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(3) 健康管理	57	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b	a
		58	② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b	b
		59	③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b	b
	A-1-(4) 食事	60	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	b	a
		61	② 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	b	b

【自由記述欄】

- ・子どもの健康管理に関するマニュアルや、子どもの保健に関する計画を作成しています。内科健診、歯科健診を実施し、その結果を保護者に伝えていきます。今後は、それらの結果を子どもの保健に関する計画等に反映させるとより良いでしょう。
- ・「保育所におけるアレルギーガイドライン」をもとに、3度の誤食防止チェックを実施するなど、子どもの状況に応じて適切な配慮を実施しています。今後は、誤食チェック表の確実な利用と共に誤食時の緊急手順を定め定期的に訓練を実施するとより良いでしょう。
- ・毎日の給食は玄米ごはんと無農薬の自然食品を中心としたメニューで、食育計画やクッキング計画に基づいて、子どもたちに食事の大切さを伝えられるよう努めています。年1回、保護者対象の給食試食会も実施しています。今後は、給食室の職員が給食の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けるとより良いでしょう。

A-2 子育て支援

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-2 子育て支援	A-2-(1) 家庭との緊密な連携	62	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a	a
	A-2-(2) 保護者の支援	63	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	a
		64	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び 虐待の予防に努めている。	a	a
	A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	65	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a	a

[自由記述欄]

- ・ 毎年、進級、入園後に各家庭に担任が訪問し、子どもの様子や家庭状況等について聞き取り、保育内容に反映するようにしています。
- ・ 虐待の早期発見、早期対応等に全職員で取り組み、その情報共有も会議で行っています。関係機関とも連携を図っており、虐待予防に努めています。
- ・ 職員の個別自己評価を毎年実施し、年間の個人別改善目標を決め、園長や主任との個別面談で内容を確認し振り返り、質の向上に繋がるようにしています。